

## 第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

### 報告書資料 一般 - 87

学校名・団体名	西宮市立北六甲台小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	プロジェクト旧 ～地域とともに歩む持続可能な未来～

〈活動・研究の意義および活動報告〉

#### 【活動の意義】

ESDは喫緊の課題となっており、それを実現する実践が求められている。そこで、学校を媒体として子どもから大人、高齢者といった地域の方が協力し、助け合える未来の地域社会の在り方を考えることで「社会に開かれた教育課程」を実現することを目指した。グローバルで日々刻々と変化する社会情勢を受けて地域社会の在り方を考え、また帰ってきたくなるような町づくりに向けての一步を踏み出すことをねらいとしている。実践を通じて、復活プロジェクトに携わってくれる地域の方やいっしょに花や植物を植えてくれる老人会のボランティアの方、そうしたさまざまな人と触れ合い、いっしょに活動したり会話したりコミュニケーションをとる姿を実現する。それこそが未来の地域の在り方につながると考える。地域やふるさとを愛する心から日本をみること、さらに、この日本に生まれ育ったアイデンティティを持ち、世界にはばたいていく子どもに成長していくことを願い活動を行った。

#### 【活動に至る経緯】

本校が位置する北六甲台地域は、35年前に天上山を切り開き、その地に開発された。有馬温泉に入る入口として豊かな自然を残しつつ、伸び伸びと子育てすることができる新興住宅地を謳い、発展してきた。開発されて30年以上が経過し、団塊の世代と呼ばれる人たちは、70歳を迎えた。さらに北六甲台地域の約30%が65歳以上となるなど超高齢化が進んでいるという現状もある。北六甲台小学校でも、学級数が減少するなど少子化の波もやってきている。本年度の6年生は開校して30年目を迎える卒業生である。30年前から現在に至るまでの児童数の推移や開校当初の学校の様子と今の様子を比較し、児童数が減少している現状から現代社会の問題に出会わせた。少子高齢化・児童数減少、学校の統廃合といった背景から活気ある学校を存続させていくためには、よりよい学校にするための取組が必要となる。そこで自分たちに何ができるか、課題解決に向けて考えるように探究課題として設定した。

## 【活動内容】

(1) 対象者 西宮市立北六甲台小学校 6年生 82名 (3クラス)

(2) 教科等 総合的な学習の時間 (国語・算数・社会・理科・道徳との教科関連学習)

(3) ねらい

①持続可能な社会の実現に向けて、地域社会の課題に気づき主体的に行動する力を養う。

(自ら探究し学びに向かう力)

②さまざまな教科と総合学習の課題とを関連させて学習を広げる。そして適切に知識や技能を活用・発揮していく場面を設定することで汎用的な知識・技能の獲得を目指す。(確かな知識・技能)

③総合学習の課題解決のため6年間学んできた教科学習や日常生活を結び付けて他者の意見や資料など多面的に物事を思考し子どもたち自らが主体的に判断できる力を養う。(思考力・判断力)

(4) 活動の特色 (人と地域のつながりを生む活動)

1) 30年前の学校の良さや地域の人の思いを知る活動

学校の創立された年に勤めていた校長先生や地域を知る GT など 30年前の状況や良さを知る方を招き、昔の環境や町づくりに対する思いを感じさせる。過去と現在の状況から自分たちにできることを考え未来とのつながりを意識した学習課題を設定し児童自ら探究していく活動とする。そういった人や地域とのつながりを意識した実践を積み重ねる。

2) 30年前の学校復活～現代バージョンにリメイクしよう～

30年前には畑や憩いの広場として活用されていた場所が図1のように立ち入り禁止になっている。その場所を使って、野菜や花を植え、地域と学校が繋がる場所になるようにリフォームしていく。

(5) 主な活動時期および内容

**第一次 プロジェクト旧～30年前にいつてきゅ～**

4月 オリエンテーション～活動の見通しを持つ～

- ・校長先生や地域から GT を招き、30年前の様子や当時の人の思いを知る

**第二次 プロジェクト旧 ～30年前の畑に戻そう～**

5月 プロジェクト旧～学校探検隊～

- ・当時の学校の様子から学校を蘇らせたい場所を探検する。(図1)
- ・地域社会の現状を知り、課題解決に向けて自分たちにできることを考える。(国語「町の幸福論」)

6～7月 リフォームの巧になろう

- ・タイヤ裏のトンネル (森林・畑・花だん) を復活させよう
- ・野菜を植えよう (理科：生物のつながり)

**第三次 プロジェクト旧～収穫した野菜でつながろう～**

8月 収穫した野菜で地域とつながろう

- ・絆祭りで野菜を配ろう ・北六甲台盆踊りで野菜を配ろう

10月 自分たちが収穫したさつまいもを使ってさつまいもパーティで地域や学校の人をつなごう

- ・地域の人、お世話になった園芸ボランティアの方、保護者とつながる
- ・児童数減少問題を解決するために自分たちの学校のすばらしさを伝えよう

11～12月 自分たちの活動をふり返り、評価しよう

- ・自分たちの活動が地域の少子・高齢化や人口数減少問題の解決に繋がっていくことのできる問題となっていたか考える。

**第四次 北六の未来を守ろう～持続可能な北六地域へ「北六幸福論の実現」～**

12～2月 活動を継続していくために5年生をはじめとする下級生に引き継ごう

- ・5年生に引き継ぐために畑をきれいにしよう
- ・下級生が入りやすいように、道をつくらう



図1 リフォーム前



図2 花壇を畑に！



図3 畑に道を作ろう (完成図)

## 【活動の成果】

少子高齢化問題は、解決が困難な問題であると言えよう。しかしながら、子どもたちは、この困難な課題に対して、北六甲台地域の未来や地域社会はどのような形をとるべきなのか考え続けた。子どもは「日本は少子高齢化が進み、なおかつ人口数も減少しているため、児童数を増加させることは難しい問題です。けれど、自分たちの活動が続けば学校の統廃合を食い止め、北六甲台小学校が残ることができるかもしれない。」と結論付けた。持続可能な未来社会には、人の繋がりや地域のコミュニティデザインが不可欠となってくる。そのために自分の住んでいる人や地域に愛着を持つことが非常に重要となる。子どもたちは、放課後になると学校に毎日のように遊びに来る。本実践を通して、学校は、仲間同士でも繋がれる場所であり、地域の人と人とが繋がれる場所と実感することができた。今後さらに、高齢者が増え続けていく未来が予想される。そんな未来だからこそ学校が地域の人と人をつなぐ場となり、日本社会を活性化することこそ、持続可能な社会の実現に向けて進むことができると考える。その第一歩としてこの活動は地域を愛し、一人一人が自分の居場所を感じることでできる実践となった。